

## (2) 東北



東北地域では、景気はやや悪化しつつある。

- ・ 鉱工業生産は減少している。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は悪化しつつある。

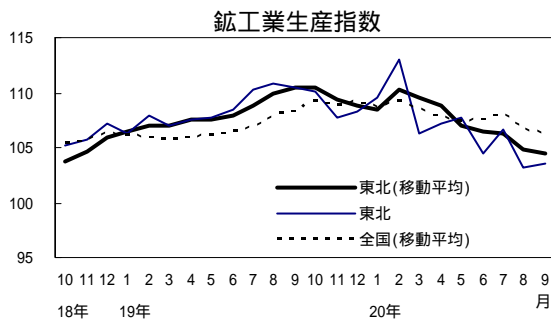
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年8月）	今回（平成20年11月）	
景況判断	弱含み	やや悪化しつつある	
鉱工業生産	緩やかに減少	減少	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏み	悪化しつつある	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は減少している。

電子部品・デバイスは、携帯電話用のシーモスセンサやアクティブ型液晶素子で減少したが、パソコンやデジタル機器に使われるモス型半導体集積回路（メモリ）が好調に推移したことから、増加している。食料品・たばこは、バターや水産加工食品で低調だったものの、ビールや発泡酒が夏場の需要増で好調に推移し、増加している。一般機械は、印刷機械の反動や半導体製造装置が低調に推移し、減少している。情報通信機械は、デジタルカメラやノート型パソコン及び国内向け携帯電話・PHSが低調に推移し、減少している。化学工業は、家庭用・業務用包装材の原料である塩化ビニリデン樹脂が低調に推移したものの、医薬品・農薬が好調だったことから、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。  
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

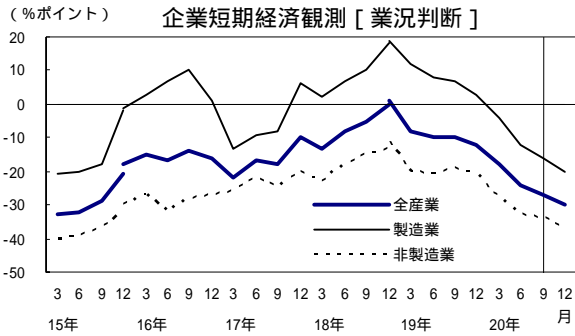
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	17.9	2.1	1.8	0.2	13.4
食料品・たばこ	11.8	4.2	0.8	2.7	9.4
一般機械	10.1	7.2	2.0	4.8	15.0
情報通信機械	9.6	6.1	15.3	14.4	12.4
化学工業	7.0	4.3	3.0	0.9	12.2
鉱工業	100.0	2.8	1.9	2.6	0.4

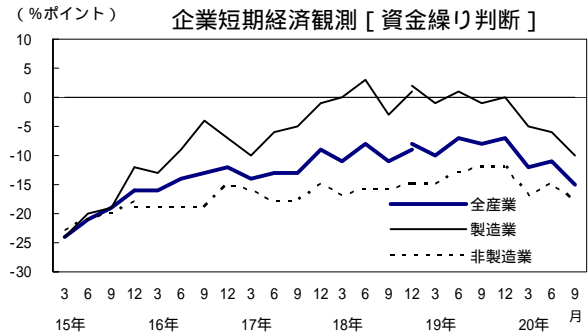
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

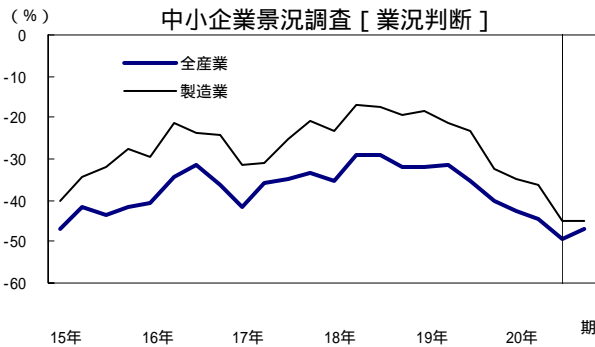
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年12月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

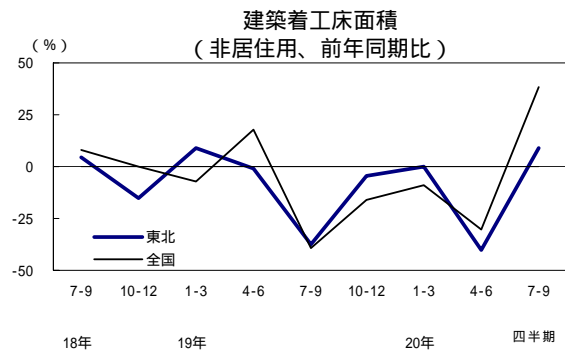
「半導体製造装置関連の受注量が急激に減少している(電気機械器具製造業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	34.3	21.5( 4.3)
製造業	56.3	27.2( 7.3)
非製造業	9.9	1.4( 2.6)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

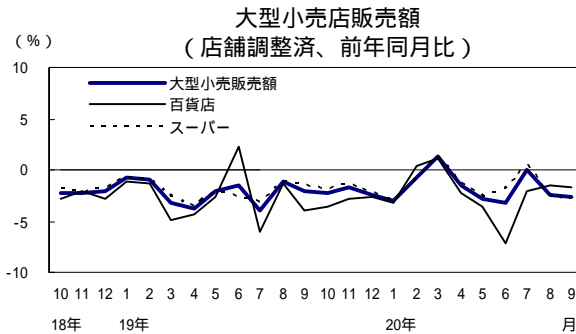
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、クリアランスセールや好天のため主力の衣料品で夏物衣料に動きがみられたが、海外ブランドの時計やバッグなどの高額な身の回り品及び飲食料品が低調であったことから、前年を下回った。8月は、上旬の夏物衣料と中旬以降の気温低下による秋物衣料で動きがあり衣料品は良かったが、引き続き身の回り品が不調であったことから、前年を下回った。9月は、飲食料品が全国の特産品や人気商品を扱った物産展により酒、菓子などが好調で前年を上回ったが、衣料品では上旬の高温で秋物衣料が振るわず、身の回り品も低調で、前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の10月の売上高は前年同月比で7.0%減となっている。

スーパーは、主力の飲食料品では精肉が低価格志向の輸入肉、安全志向の国産肉ともに堅調であったが、野菜や相場高の鮮魚等で振るわず低調であり、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

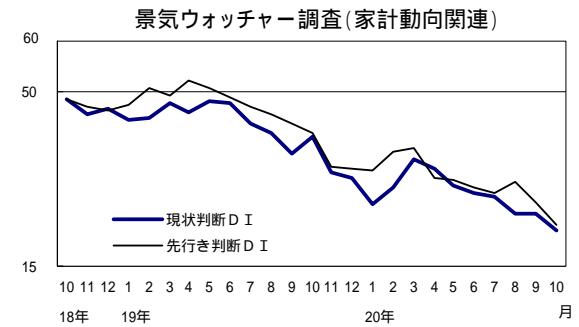
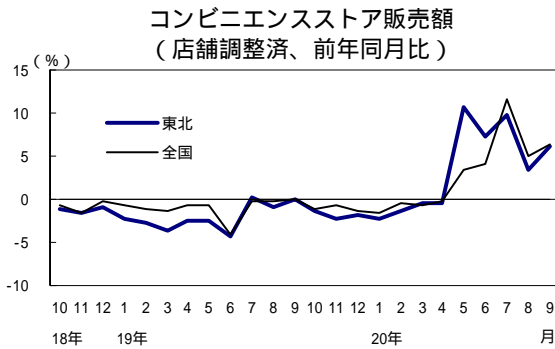
「新型車誕生イベントの来客数が少なく、商談の長期化も目立っている。販売をけん引してきた好燃費のコンパクトカーや軽自動車の販売も減少している(乗用車販売店)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.1	0.9	2.5	1.7
百貨店	3.0	0.7	4.3	2.1
スーパー	1.8	1.0	1.9	1.6
コンビニ	1.8	1.3	5.8	6.3
景気ウォッチャー	35.7	31.4	31.7	26.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

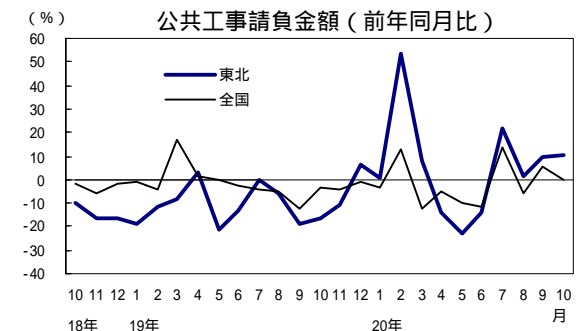
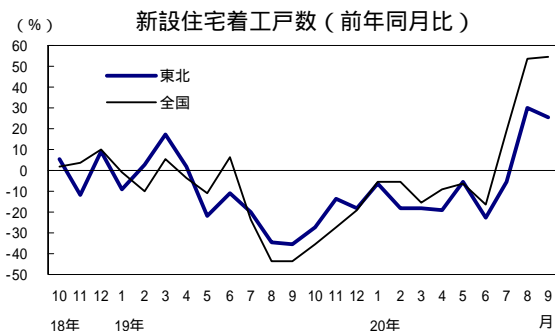
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、持家を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

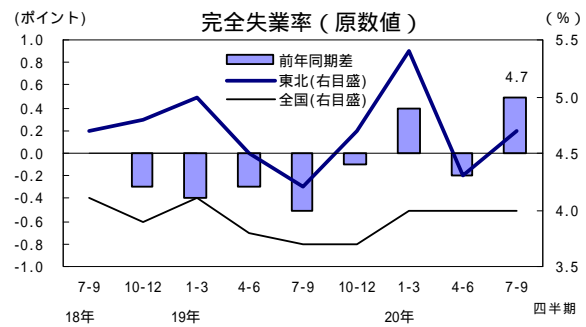
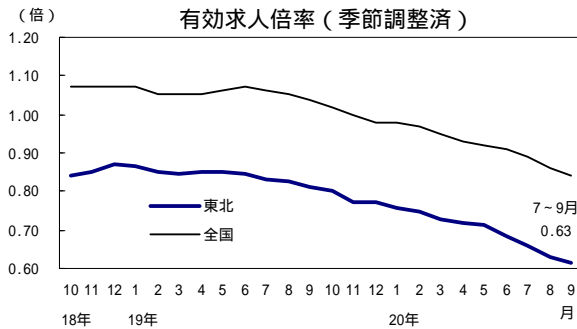


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

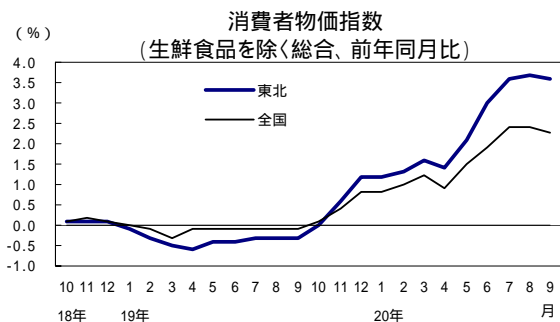
「親会社の影響で子会社では人員整理や生産調整に入っている(職業安定所)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に増加、負債総額も増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月	20年10月
倒産件数	242	264	291	288	107
(前年比)	8.0	13.3	16.4	32.1	18.9
負債総額	810	951	982	1,089	272
(前年比)	18.9	4.8	30.4	78.4	9.0



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・10月からの清酒値上げの周知時期に事故米焼酎問題が発覚したため、小売店は混乱し、飲食店への値上げも徹底されず、値上げ前の仮需要も前代未聞の静けさとなっている。店売り、業務用共に販売量が伸び悩んでいる(その他非製造業[飲食料品卸売業])

<先行き>

・ガソリンや灯油価格は一時期より安くなっているが、前年と比較すると依然として数段高い状況にあること、また、一度値上げした食品は、そのままの売価で推移することから、今後も客の財布のひもは固いままの状況が続く(スーパー)

#### 景気ウォッチャー調査(合計)

